



# 伝道者論

『神学』86号  
東京神学大学神学会❖編

◆主題論文

- 言葉と実在の「あらい」について——伝道者の語る言葉をめぐって……………神代真砂実  
旧約預言者の職務の特徴について……………田中 光  
伝道者アウグスティヌス——『説教』213 における「信条の伝達」、その翻訳……………本城仰太  
カイサリアのバシレイオスの書簡から見る「伝道者」像についての一考察……………飯田 仰

◆自由研究

- パウロの黙示的福音(2)——ローマの支配を無力化する神の支配……………河野克也

◆博士論文要約

- 旧約聖書におけるイスラエル12部族の歴史の変遷と陰影(後編)……………宮崎 薫

◆博士課程後期生論文

- G. エーベリンクの「信仰の教義学」——「信仰論」と「教義学」の狭間で……………朴 大信



山口雅弘 [著] (日本キリスト教団 引退牧師)



# 「生きる」をいつくしむ

## ガリラヤに生きたイエスの「共食と共生」

1月下旬刊行予定



### イエスによる「神の国運動」、 その中心は「共に食し、共に生きる」こと！

「キリスト教の原点」であるイエスの生き方を現代に回復することこそ急務。  
キリスト者か否かを問わず「平和」を求めるすべての人びとに贈る力作！

著者は現代に満ちる暴力と戦争の悲惨な連鎖を見据え、「希望」を見失わずにイエスの「実像」と宣教の使信に迫る。イエスが示す「共食」は、理不尽な苦しみを強られる人にとって「共生」の喜びの時を育む源、人を非人間化する「社会悪と宗教悪」に抗う時と場になった。この「共食と共生」の生き方とローマ帝国の極刑であった「晒し柱」（十字架刑）のイエスの処刑死を「贖罪信仰」へと神学化し、「キリスト教」も諸悪の温床になっていることを歴史批判的に検証。『ガリラヤに生きたイエス』に続く第2弾！

<p><b>主な目次</b> まえがき</p> <p>第一章 「人間の实態」を見る視点／「人間学」の視点から／ユダヤ民族の生き方の特徴</p> <p>第二章 「共食と共生」の課題／「共に食べる」という切り口から／平和の源と希望としての「共食と共生」／弱いことはすてきな時代／食を共にすること／「神よ、なぜですか！」と祈る前に／それでも「希望」を失わず</p> <p>第三章 「共食と分かち合い」の物語の前史／「罪つくりな「原罪」の教え／「食物」をめぐる最初の記事／「未知の世界」に踏み出すイブ／「失楽園」に生きる人間／神のように「なれない」人間</p>	<p>第四章 ユダヤ教律法の価値基準／「食」のタブー／「共感・共苦」</p> <p>第五章 洗礼者ヨハネとイエス／いなごと野蜜／イエスの先駆者／イエス時代の人びとの生活環境／食事と保存食の知恵／第六章 「罪人」との食事／旅人イエス／ド・ダ・ヴィンチの問いかけ／イエスの最後の食事／三 愛を施しを受ける日々／【コラム10】イエスとガリラヤ人の日常語／三 徴税人レビのもてなし／四 「罪人」との食事</p> <p>第七章 五千人との共食／「憐れみ」の心／五つのパンと二匹の魚／二 分ければ増える／三 イエスの「ちむぐりさ」</p>	<p>第八章 イエスの「遺言」／ホスピタリティ／ガリラヤの民衆が伝えるイエスの「共食」／二 旅の食事とイエスの「遺言」／三 「共食」の根底にあるホスピタリティ／四 自立と分かち合いの生き方</p> <p>第九章 イエスの処刑前の食事／最後の晩餐／レオナルド・ダ・ヴィンチの問いかけ／二 イエスの最後の食事／三 愛</p> <p>主な参考文献表／あとがき／各章に【コラム】</p>
--	---	---

**著者略歴：**山口雅弘（やまぐち・まさひろ）1948年札幌に生まれる。日本聖書神学校卒業。以後、日本キリスト教団諸教会の牧師を歴任。アメリカ・ケンブリッジ Episcopal Divinity School に留学（神学修士号取得）。単位互換制度によりハーバード大学神学校で学び、米国長老派研修施設（ニューヨーク）常駐神学教師、並びに諸教会の協力牧師。日本聖書神学校講師（新約学）。現在、日本キリスト教団引退牧師。著書：『イエス誕生の夜明け：ガリラヤの歴史と人々』、『よくわかる新約聖書の世界と歴史』（以上日本キリスト教団出版局）、『イエスの道につながって：教会暦による随想とメッセージ』（新教出版社）、『ガリラヤに生きたイエス：いのちの尊厳と人権の回復』（2022、2023<sup>2</sup>ヨベル）。編・著書：『聖餐の豊かさを求めて』（新教出版社）。翻訳書：M. ヘンゲル著『イエスは革命家であったか』（共訳、新教出版社）、L. ウィリアムソン著『現代聖書注解—マルコによる福音書』、P. パーキンス著、P. パーキンス著『現代聖書注解—ペトロの手紙1・2、ヤコブの手紙、ユダの手紙』（日本キリスト教団出版局）、M. ディベリウス著、H. コンツェルマン改訂増補『牧会書簡注解—第1・第2テモテ書、テトス書』（教文館）。

新書判・288頁・1,650円（税込）  
1,500円＋税 ISBN978-4-911054-35-2 C0216



金子晴勇 [著] (ヨーロッパ思想史) [全6巻] 各巻・新書判・平均300頁・1,540円(税込)



ヨベル新書 103

# キリスト教思想史の例話集II

## 命題集

『キリスト教思想史の諸時代』  
の続編、第2弾!

2025年1月30日刊行予定

命題集とは思想家の中心思想を  
短い言葉で証言したものである。

神学的な命題集はペトルス・ロンバルドゥスの大冊が有名である。中世と宗教改革の時代までその命題集が神学の重要な仕事として行われてきました。近代以後はその伝統は継続されませんでした。ですから古代から宗教改革までは自己の思想を命題として表明することが行われていたと言えます。そこでわたしたちはこのようなキリスト教思想史の特徴を命題集の形で蒐集することで、学ぶことができるシリーズ第2弾! (本書より)

主な目次(詳細目次は省く)

- 序論
- 第一部 人間学的命題集
  - I 人間とは何か 一人間の定義をめぐって
  - II 自己認識と神の認識
  - III 人間学の三分法 — 霊性・理性・感性
  - IV 「神の像」と「人間の尊厳」
  - V 良心概念5
  - VI 人間と人格の区別
  - VII 自由と自由意志
  - VIII 人格共同体

- III 罪とその救い
- IV 信仰と認識
- V 義認論 — 宣義と成義
- VI 義認と聖化
- VII 予定説
- VIII 愛の類型
- IX 生と死 — キリスト教的死生観
- あとがき

全6巻構成(赤字既刊)

- I 物語集 [第1回配本]
- II 命題集 [第2回配本]
- III 「共生」の神秘 [第3回配本]
- IV 愛のかたち [第4回配本]
- V 試練の物語 [第5回配本]
- VI 霊性の輝き [第6回配本]

著者紹介 金子晴勇(かねこ・はるお) 1932年静岡生まれ。1962年京都大学大学院博士課程中退。立教大学助教授、1975年『ルターの人間学』(東京大学出版会)で京大文学博士、76年同書で日本学士院賞受賞。岡山大学教授、静岡大学教授、聖学院大学客員教授。

主な著書:『ルターの人間学』、『アウグスティヌスの人間学』、『ヨーロッパ人間学の歴史』、『エラスムスの人間学』、『アウグスティヌスの知恵』、『キリスト教人間学』、『私たちの信仰』、『ヨーロッパ思想史』、『東西の霊性思想』、『キリスト教思想史の諸時代』(全7巻別巻2完結)、『「良心」の天路歷程』ほか多数 主な訳書:アウグスティヌス著作集第9巻、ルター『生と死の講話』、ルター『神学討論集』、エラスムス『格言選集』、エラスムス『神学著作集』、コックレン『キリスト教と古典文化』、エラスムス『対話集』、ほか多数

### 第二部 神学的命題集

- I 創造思想
- II 契約思想



YOBEL, Inc.

新書判・336頁・定価1,540円(税込)  
定価1,400円(税別) ISBN978-4-911054-28-4 C0216

12月18日(水)発売予定

 サンパウロ 新刊案内

# わたしヨセフの夢

ぶん——今岡 まち え——大島 節子



「わたしはマリアの夫で、神のひとりごイエスの養い親であるヨセフです。わたしの家はイスラエルの王ダビデの血筋なので、兄たちは、いずれ自分は王になると盛り上がっておりましたが、実際はみな貧しい者にすぎません。ひょんなことでマリアと出会ったことから、全く予期せぬことが、次々と私の身に起こります。そのたびに神のみ使いの天使が夢に現れてわたしを導き、妻マリアとかわいいイエスが私を支え力づけてくれるので、何とか乗り切ることができました。

わたしには夢があります。昔は立派な神殿を建てようなどと思ったりしましたが、今のわたしの夢は、もっとでっかい夢です。この絵本を読んで共感してくれたら、とてもうれしいです。」

今岡 まち

横浜生まれ。

東京学芸大学卒。小学校教師を経て雑誌編集者。

—主な作品—

絵本

『かみさまをつつんだしろいぬの』『ミーナのほしのころも』『くりすますのつえ』『青いチョウのバル』(サンパウロ)

小オペラ

『ニャンコとワン吉のクリスマス』

『神様に選ばれた方』

朗唱オペラ

『聖なる夜のキャロルおじさん』

『人は何で生きるか』ほか。

大島 節子

新潟生まれ。

東京純心女子短期大学卒。イラストレータ。

現代童画会会員。

—主な作品—

『サクラソウのひみつ』(日本ユネスコ連盟)

『はじめの一步』(あずきスタジオ)

『心豊かな子を育てる39のヒント』(PHP研究所)

『聖フランシスコの小さな花』『幸せのヒント』

『くりすますのつえ』(サンパウロ)ほか。





# 福音伝道の喜び

みことばから学ぶキリスト者の使命

朴永基 著

伝道とは何か。なぜしなければならないのか。なぜできないのか。何をどのように伝えるのか。受けるべき訓練や必要な心構えは？ 根拠となる聖句や実例を確認しつつ、さまざまな角度から、先に救いにあずかった者に与えられている喜ばしい務めについて学ぶ。

A5判 160頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

ISBN978-4-264-04537-3 C0016

いのちのことば社卸コード 07100



改訂新版

# 筑豊に生きて

犬養光博 著

1960年代の筑豊から今日の教会への大きな問いかけ！ 福音を伝えるとはどういうことなのか。地域に仕えるとはどんなことなのか。今日のキリスト教宣教のありようをいま一度問う一冊。

B6判 288頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

ISBN978-4-264-04536-6 C0016

いのちのことば社卸コード 029295